

# 金沢大学考古学研究会活動報告 第4号 表紙・序 ・例言および目次

著者	金沢大学考古学研究会
雑誌名	金沢大学考古学研究会活動報告
号	4
ページ	0-0
発行年	1986-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00060487">http://hdl.handle.net/2297/00060487</a>



# 金沢大学考古学研究会活動報告

第 4 号

—能美地域の古墳群と梯川流域—

1986・3

金沢大学考古学研究会

# 金沢大学考古学研究会活動報告

第 4 号

—能美地域の古墳群と梯川流域—

金沢大学考古学研究会

# 序

金沢大学考古学研究会は1969年に結成以来、活動の主柱を能美地域の遺跡分布調査に求め、それに関連しての発掘調査を含めた幅広い調査活動を行ってきた。

これらの活動は単なる遺跡分布調査にとどまるものではなく、調査から得られた資料をもとに、能美地域の地域史解明のための研究を重ね、それから得られた結果を、住民との交流を深めることによって地域に還元しつつ、同時に地域史解明の重要な手掛りとなる遺跡・埋蔵文化財の保護をも訴えかけるものであった。これらの成果の概要は74・75・81年の『活動報告第1号』『同第2号』『同第3号』において発表している。

本書は以上のような方向を踏まえつつ、『第3号』発行以降、梯川流域の分布調査・河田山1号墳の発掘・秋常茶臼山1号墳の発見と略測等から当研究会が蓄積してきた資料をもとに、先学諸氏の調査・研究成果もまじえて、能美地域に対する独自の地域史の組み立てを試みるため企画・編集したものである。

本書は次の6章から構成されている。まず、第Ⅰ章では当研究会が長年手掛けてきた能美地域の、歴史的・地理的環境の概要を述べ、さらに第Ⅱ章でその能美地域に対する『第3号』発行以降の調査・活動の経過について触れた。Ⅲ章では84年春に当研究会によって発見された秋常茶臼山1号墳を始め、能美地域の一連の古墳群の分布調査の概要を述べ、Ⅳ章では当研究会が82～83年に行った河田山1号墳の自主発掘の報告、そしてⅤ章では加賀地方の古墳時代の展開について触れながら、当研究会が調査した河田山1号墳や秋常茶臼山1号墳等の位置づけを試みた。またⅥ章では当研究会が梯川流域の分布調査によって採集した遺物を紹介している。

会員一同浅学ながらも、以上の項目を記し、17年にも及ぶ当研究会の活動の一つの節目としたいと思う。本書が今後の能美地域における研究活動の一助にでもなれば幸いである。

## 例 言

- 1 本書は、金沢大学考古学研究会が1979年度から1985年度まで行った能美地域における古墳群の分布調査と、梯川流域における分布調査を中心とした活動の成果をまとめた自主活動報告書である。

- 2 調査期間

梯川流域遺跡分布調査——1981～85年度春季・秋季

河田山1号墳発掘調査——1982年7月21～30日（第1次調査）

1983年7月21～27日（第2次調査）

1981年秋季～1985年春季（事前・予備調査）

古墳群分布調査——1981～85年度春季・秋季

秋常茶臼山1号墳丘略測——1984年4月29日

- 3 それぞれの自主調査には1981～1985年度会員全員があたった。

（1985年度会員）

阿部洋子	猪川周二	石原篤	内堀照子
宇野泰裕	大杉幸久	大原ひとみ	大和久也
川畑誠	北村圭弘	木納秀文	久保正明
小三田栄	児玉剛	後藤篤	小林勇一
坂本保明	沢田和幸	下川弘晃	関口佳江
関本充博	田代明久	田中淑子	辻克彦
中村浩久	長野幸司	楡金尚美	野上建紀
波能映子	平原孝之	藤井明夫	前川博美
宮谷優子	和田真紀子		

（1981～84年度卒業会員）

赤井智志	石崎俊哉	大田圭子	太田敏明
加藤秀雄	狩野貢三子	川地洋美	河原祐馬
川端伸子	木田清	後藤幸史	小林茂子
佐藤悦夫	清水邦芳	近間強	永田由紀子
中村英洋	野沢知子	野路徳明	八野田正幸
花塚信雄	平松孝司	藤田潔	二村仁詞

星 雄 二 前 田 清 彦 松 井 圭 也 宮 本 康 子  
村 山 洋 二 山 本 卓 治 吉 田 治 夫

- 4 図面等の作成・トレースは、川畑誠・久保正明・児玉剛・関口佳江・田中淑子・中村浩久・藤井明夫が担当し、その他の屋内整理作業には 1985 年度会員全員があたった。
- 5 本書の作成にあたっては、次のように分担執筆した後、1985 年度会員全員の協議の上、推敲を重ねて編集した。

第 I 章 1 .....	小三田 栄・藤井 明夫
第 I 章 2 .....	猪川 周二
第 I 章 3 .....	阿部 洋子・長野 幸司
第 II 章 1 .....	中村 浩久・藤井 明夫
第 II 章 2、3・第 III 章 .....	宇野 泰裕・藤井 明夫
第 IV 章 .....	田中 淑子・藤井 明夫
第 V 章 .....	藤井 明夫
第 VI 章 .....	中村 浩久・長野 幸司・宮谷 優子

- 6 本書に掲載した地図は、スケール・方位の入っているもの以外は、全て上が北で、縮尺は五千分の一である。
- 7 本書に収録した遺物は一括して金沢大学考古学研究会が保管している。

## 目 次

### 序

#### 第 I 章 能美地域の地理的歴史的環境

1 地理的環境 .....	1
2 能美丘陵～丘陵北辺の古墳時代の環境 .....	1
3 梯川流域の歴史的環境 .....	4

#### 第 II 章 調査・活動の経過

1 79 年度から 85 年度までの分布調査・活動の要旨 .....	6
2 河田山 1 号墳の発掘 .....	7
3 秋常茶臼山 1 号墳の発見 .....	8

#### 第 III 章 古墳群の分布調査の成果

1	既往の調査	9
2	秋常茶臼山1号墳	13
3	能美丘陵北辺の古墳群	15
4	能美丘陵南辺の古墳群	18
5	小結	22
第IV章 河田山1号墳の発掘		
1	調査の経過	25
2	墳丘の調査	26
3	出土遺物の観察	33
4	小結	36
第V章 加賀における古墳時代の展開——秋常茶臼山1号墳・河田山1号墳を中心として——		
1	はじめに	43
2	古墳群の分布の概要	43
3	草創期（古墳築造の前史）	47
4	第I期（加賀における古墳の成立）	47
5	第II期A（広域首長墓の出現）	50
6	第II期B（広域首長墓の再現）	55
7	第III期（群集墳の盛行）	57
第VI章 梯川流域の分布調査の成果		
1	調査の経過と展望	61
2	古府周辺の分布調査	62
3	埴田周辺の分布調査	64
4	河田周辺の分布調査	65
後記		